

■天皇皇后両陛下福岡県行幸啓
～第37回全国豊かな海づくり大会
御臨席・地方事情御視察～



月刊
アムス
チャップリン

チャップリン

2018年(平成30年)

1月15日

第33巻1通巻204号

昭和62年5月22日第三種郵便物認可

¥200 1・4・7・10月 15日発行

発行人 株式会社アムス 〒173-0027東京都板橋区南町62-7スカイコートK. 1階

天皇皇后両陛下下行幸啓 福岡県 平成29年10月27日～10月30日



を
お
か
け
い
た
だ
き
ま
し
た。
天
皇
皇
后
両
陛
下
か
ら
は、
そ
れ
ぞ
れ、
被
災
し
た
地
域
に
高
齢
者
が
多
い
こ
と、
ま
た、
農
業
へ
の
影
響、
そ
し
て、
そ
れ
ぞ
れ
の
健
康
を
気
遣
う
お
言
葉
を
随
所
で
賜
り
ま
し
た。
両
陛
下
の
お
言
葉
を
い
た
だ
い
た
被
災
者
の
一
人
か
ら
は、「自
分
は、
残
し
て
も
ら
う
た
命
を
大
切
に
し
て
こ
れ
か
ら
も
頑
張
り
た
い」と
い
う
決
意
あ
ふ
れ
る
発
言
も
あ
り
ま
し
た。

両陛下の強いご希望により、当初の予定を一日早めてご来県いただき、平成二十九年七月の北部豪雨の被災地をお見舞いいただきました。十月二十七日、朝倉市役所の杷木支所に参り、福岡県知事から被災状況等をご聴取、そして、被災者の方々のお見舞い、そして、災害対応尽力者へのおねぎらいをなさいました。それから大分県の日田市役所に行かれました。日田市役所におきましては、大分県知事から被災状況等をご聴取なさり、それから被災者のお見舞いをなさいました。また、災害対応尽力者へのおねぎらいをなさいました。

被災者の方一人一人、また、災害対応尽力者にじっくり時間をかけて、お心のこもったお見舞いと励ましの言葉



また、沿道の各地では、大変大勢の県民の皆さんに旗や手を振って歓迎をしてもらいました。朝倉市の杷木支所では園児の皆さんが「陛下、ありがとうございます」とひときわ大きな、元気のよい声を上げて、天皇陛下がそれについて、被災者の方々に「お姿もまた印象的でした。」

「福岡県公式ホームページより一部抜粋」



天皇皇后両陛下が第37回全国豊かな海づくり大会へ御臨席させること、併せて平成29年7月九州北部豪雨による被災地御見舞いのため朝倉市を御訪問され、福岡県へは、平成19年10月の福岡県西方沖地震被災者御訪問以来、実に10年ぶりのこととごさいます。豪雨災害から約3ヶ月が経過しました。

福岡県知事コメント

小川洋福岡知事

きな
励
み
と
な
る
も
の
と
大
変
有
難
く、
嬉
し
く
思
っ
て
お
り
ま
す。
あ
ら
た
め
て、
両
陛
下
の
お
気
持
ち
に
感
謝
し、
謹
ん
で
お
礼
を
申
し
上
げ
ま
す。
県
と
し
ま
し
て
は、
一
日
も
早
く、
被
災
地
の
皆
様
が
元
の
平
穏
な
生
活
と
元
の
お
仕
事
に
戻
っ
て
い
ただ
け
る
よ
う、
今
後
と
も
全
力
を
挙
げ
て
ま
り
ま
す。
ま
た、
海
づ
く
り
大
会
が
開
催
さ
れ
る
宗
像
市
で
は、
本
年
7
月
に「
神
宿
る
島
」
宗
像
沖
ノ
島
と
関
連
遺
産
群
」
が
ユ
ネ
ス
コ
の
世
界
文
化
遺
産
に
登
録
さ
れ
ま
し
た。
登
録
さ
れ
た
そ
の
年
に、
世
界
中
か
ら
注
目
を
集
め
る
こ
の
地
に
両
陛
下
を
お
迎
え
で
き
ま
す
こ
と
は
誠
に
光
榮
で
あ
り、
こ
の
う
え
な
い
喜
び
で
あ
り
ま
す。
『
福
岡
県
公
式
ホ
ー
ム
ペ
ー
ジ
よ
り
』

東日本パイロット協会



災害ボランティア フライヤーズ・レスキュー・チーム

〒980-4504

宮城県栗原市瀬峰小深沢232-1 電話 0228-36-2717



羽ばたけ東北

「第37回全国豊かな海づくり大会」福岡大会 ～育もう 海 人 地域 みんなの未来～ 天皇皇后両陛下 式典出席

第37回全国豊かな海づくり大会



九州北部豪雨の犠牲者への黙祷の後、子ども達のマーチン具バンドや作文披露等をご覧になり拍手を送られていた。

天皇皇后両陛下は、十月二十九日午後、会場宗像ユリックスにおきまして第三十七回全国豊かな海づくり大会の式典にご臨席を賜りました。また、その中で放流魚のお手渡しもいただきました。式典においては、地元の小中学生による最優秀作文の発表や、福岡海洋少年団、三つの海の若手漁業者が行った福岡海づくりメッセージを興味深そうにうなずかれながら熱心にお聞きいただきました。

ご退席の後両陛下の方から、この大会について三つの感想がありました。”すばらしい、とてもよい式典であり

ました”と。二番目は、お子さんの作文はしっかりしていて大変よかったですね”と。そして三番目は”最後は、各地に跡を継がれる若い漁業者が出てきているということは大変心強いことです”と。この三つの感想をいただきました。式典の後、福岡県が全国有数の漁獲量を誇っているトラフグ、マダイなどの放流魚についてご紹介をし、ご覧いただきました。両陛下は大変興味深い様子で、随所でご質問をいただきました。

『福岡県公式ホームページより一部抜粋』

福岡県行幸啓日程

福岡県行幸啓四日間全般について、両陛下のいつもお優しく、また、ご慈愛に満ちた表情、お言葉、立ち振る舞いが特に印象に残りました。お立ち寄り先では、多くの県民の皆さんと温かく接していただきました。また、沿道で手を振ってお迎えされている多くの県民の皆様にも、丁寧に、また、にこやかに応えいただきました。こうした天皇皇后両陛下

のお姿、そして、一方で、両陛下と接しておられます県民の皆様の笑顔や反応を見ておられますと、両陛下の地域へのご訪問の重さ、すばらしさを改めて実感させていただきました。多くの県民の皆さんが両陛下と触れ合うことができて、大変大きな喜びであったと思っております。

この四日間で六万五千人を超える大勢の県民の皆様は、奉迎いただきました。

- 10月27日
皇居(乾門)御発
東京国際空港御発
福岡空港御着
○朝倉市役所杷木支所
○日田市役所
新鳥栖駅御発
小倉駅御着
お泊所・リーガルロイヤルホテル小倉御着
■10月28日
○安川電機みらい館御視察
お泊所・リーガルロイヤルホテル小倉御着
第37回全国豊かな海づくり大会
絵画・習字優秀作品御覧
歓迎レセプション御臨席
御宿泊
- 10月29日
○宗像ユリックス第37回全国豊かな海づくり大会
式典行事御臨席
○玄海ロイヤルホテル
○鐘崎漁港(放流会場)
第37回全国豊かな海づくり大会
海上歓迎行事御臨席
及び御放流
○宗像大社
○西日本高速道路事務所
お泊所・リーガルロイヤルホテル小倉御着
■10月30日
北九州空港御発
「全日本空輸」特別機
東京国際空港御着
皇居(乾門)御着
『出典 宮内庁』



この行幸啓が、被災地の皆様はもとより県民の皆様の励みとなり、平成二十九年の北部豪雨災害からの一日も早い復旧・復興、そして、水産業の振興をはじめとする我が福岡県の県勢の発展につながることを心から願っています。そして、何よりも両陛下の今後のますますのご健勝とご繁栄を心から祈念いたします。

『福岡県公式ホームページより一部抜粋』



特定非営利活動法人 社会生活促進援護会

山梨県笛吹市一宮町南野呂394番地1号
電話 0553-47-2236